

弦入
改正

寛永の巻記

上

伏所持

地
中
三
冊
一

73
6211
1



73
73-3
6211
1

寛永三年九月六日 二條清城

海行書



去 五味均平蔵

三礼六のころ天むけのくまの地をまわつて
よむよめのも神代の年月をうそへむしりて
ききとらんけりなむ人まらんやうぢんじ天日
より寛永れ今よのうまてせいち百十代せ、さう
二ふ二百七十六てうていりまうりとはつたのまつ
そくしむやうらんれはとめ、書乃葉のちりうぢん
いしにおよとんとせとるをほけり人おほ



三つねり今あに

新征夷大將軍九位源秀忠云

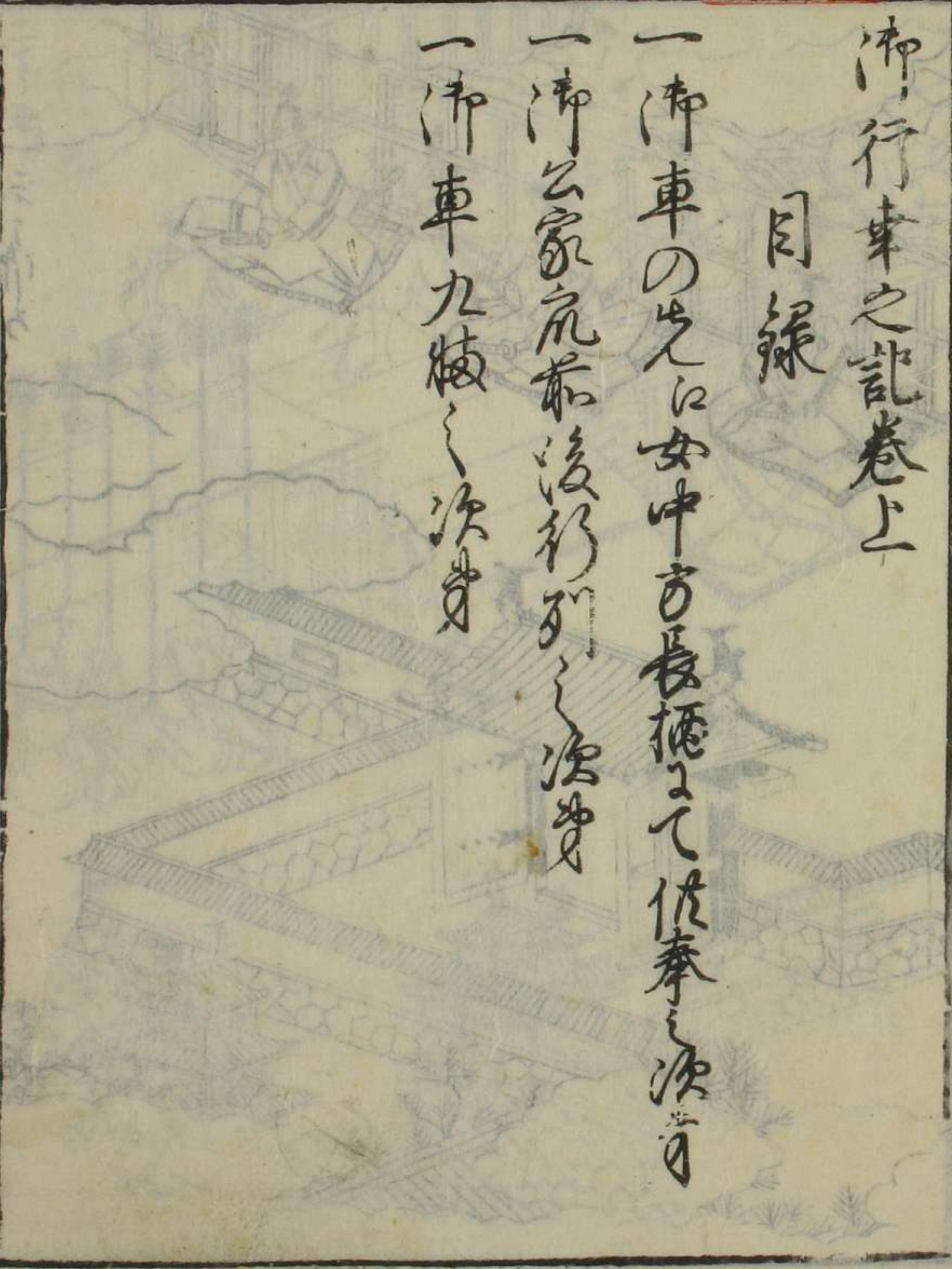
同右大位源家光公の御事なりしに
海軍のやみまつりともあきまふりも
あしきとせむすむろい天氣をぬま
よひきなりとて二條亭にまゐりしに
なるとかんわらむとけりきも
と共いしげいしきとけりしに
せんともいしゆきなりとけり

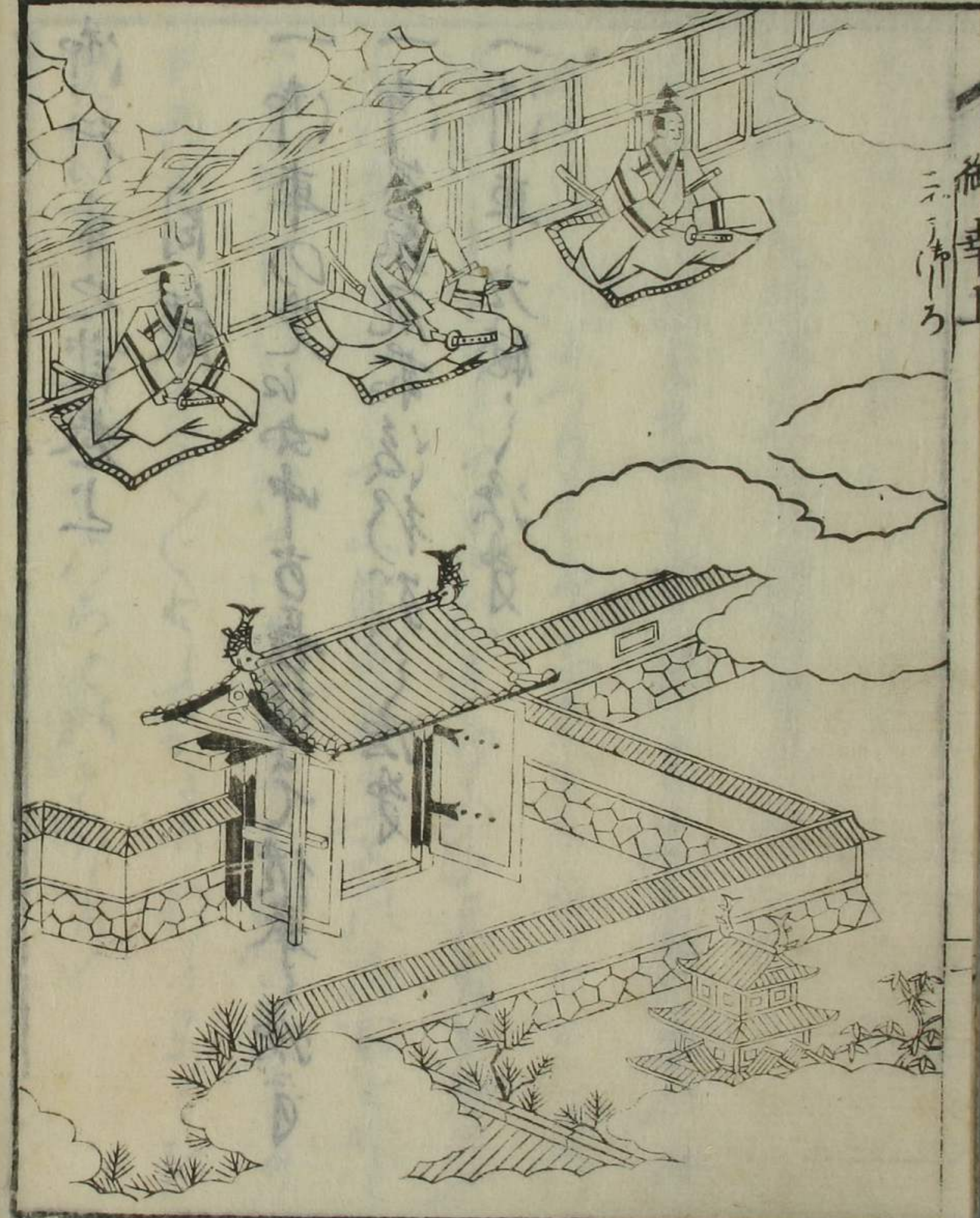
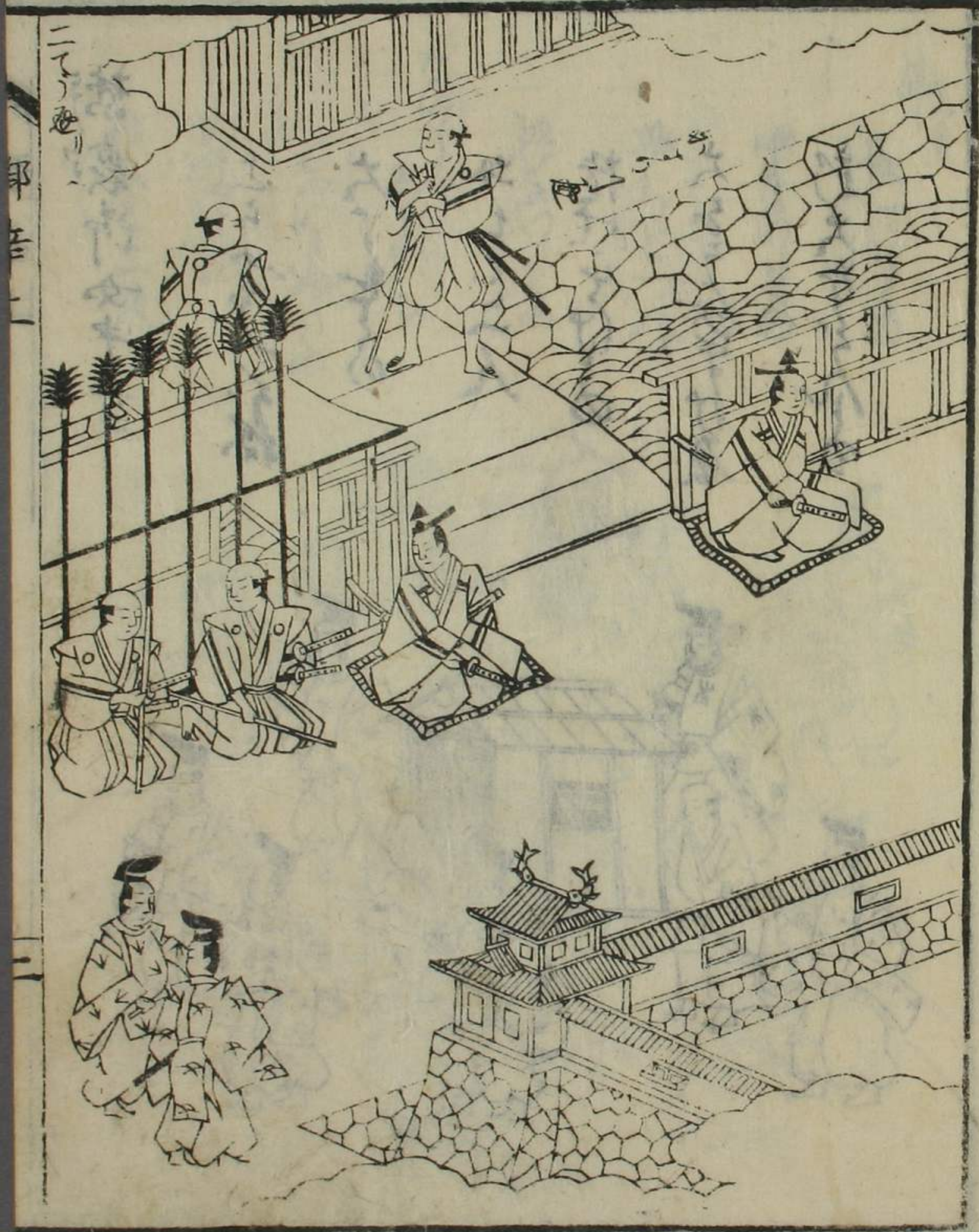


御行幸之記卷上

目録

- 一 御車の先は女中が長柄にて伏奉り侍り
- 一 御公家前最後行列の次第
- 一 御車九輛の次第





禁裏済女中方

とらふ侍つゝお孫

大ヤリをよの

ゆらご一人

持けりけよの

大ぬらんのまけぬ

新大やごんよの



車

長けよの

中まらよの

ゆらご一人

とらふ侍つゝお孫

大ぬらんのまけぬ

新大やごんよの

ゆらご一人

とらふ侍つゝお孫



江戸のうら

まじりの

りまの

らりまの

あつげの

うねの

とねの

とねの

つねの

か

たん

お

い

た

お

と

女

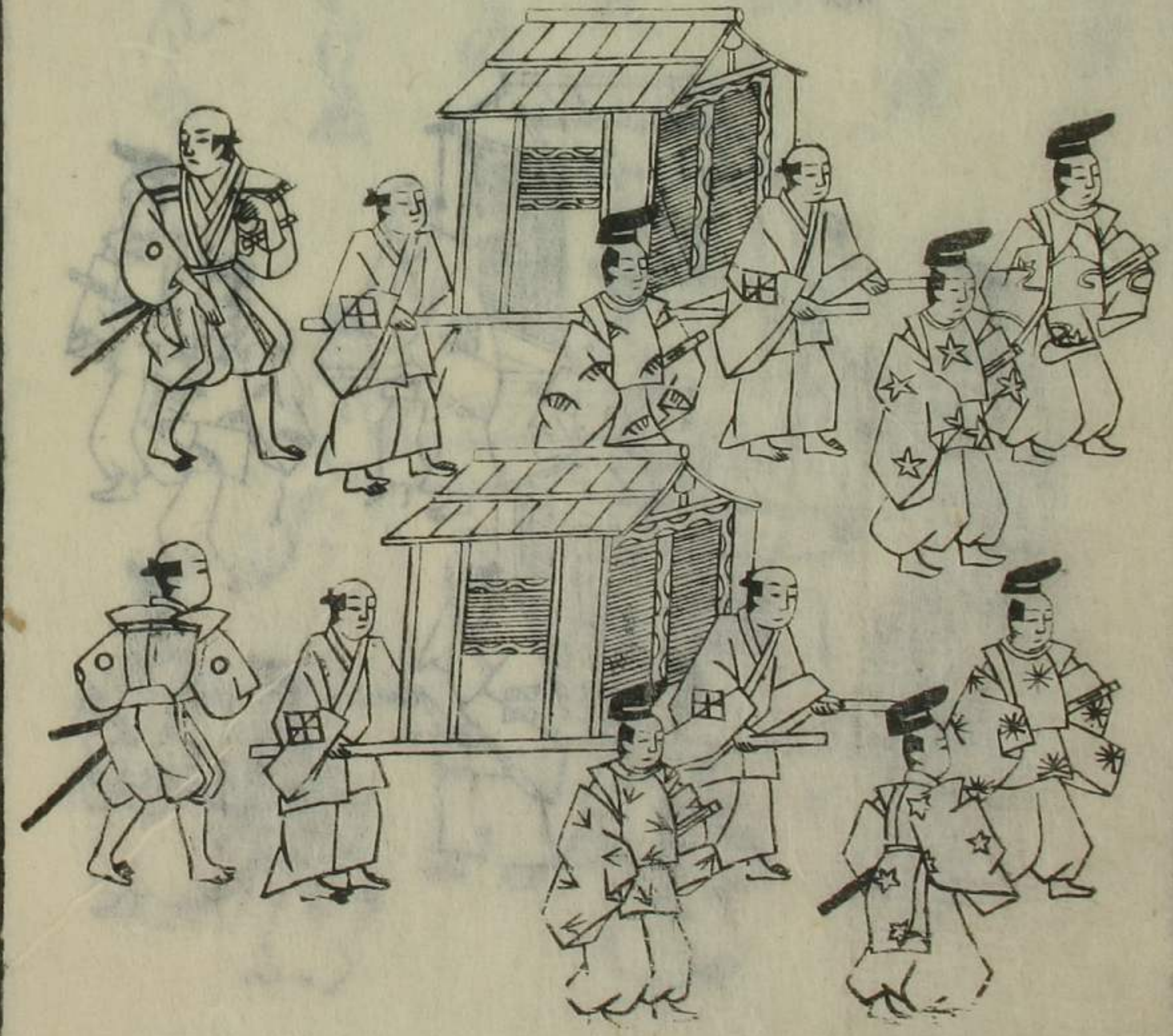
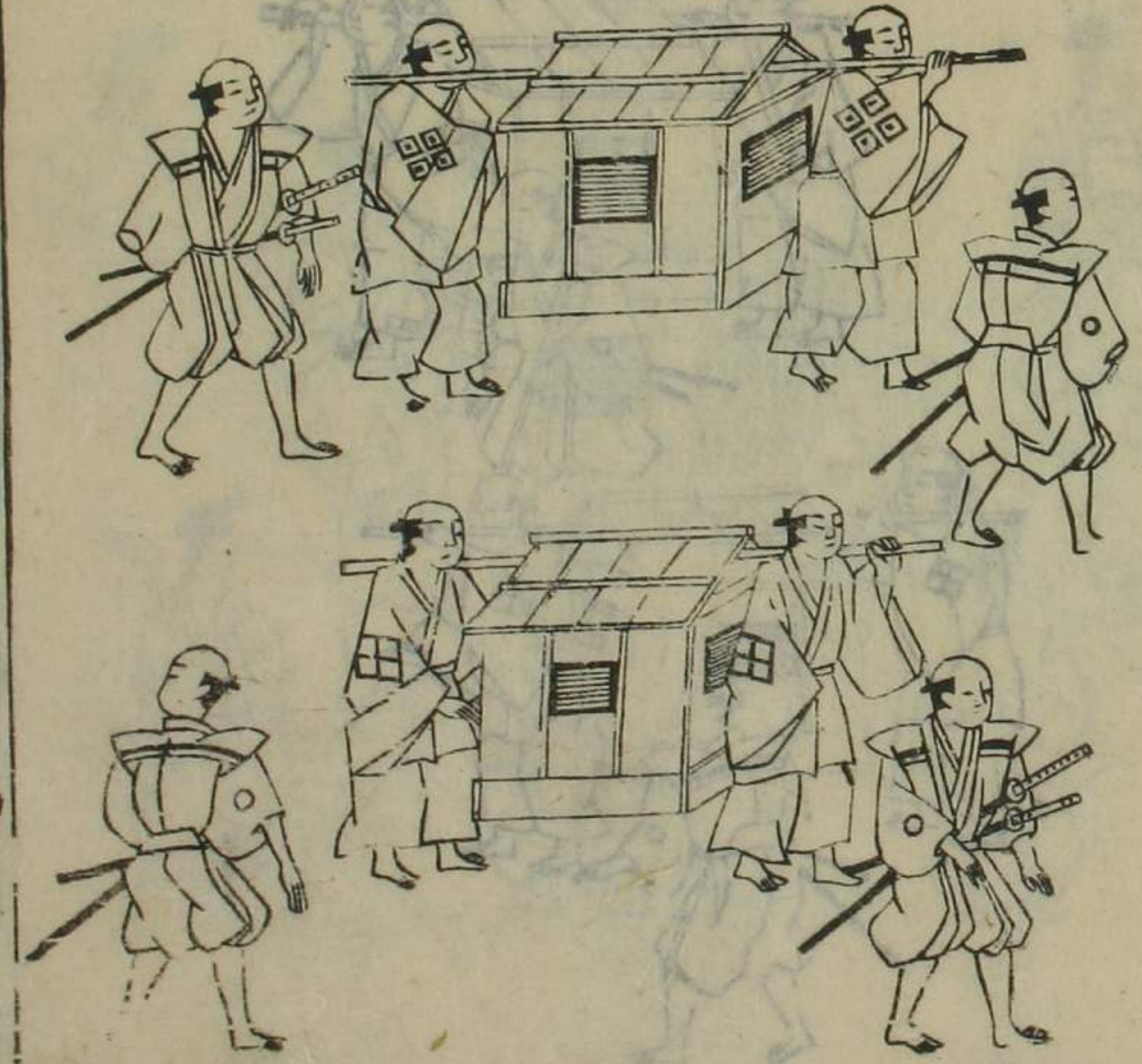
下

二

う

上

合



じやうおらで
七人

長福

九人

はりのり

九人

まぬり

十人



けまの

三人

いのこの

もろがの

うらこの

はまのつみ

おねの

うつこの



姫文様
おろとさき

長えん
海内もの

何物
一人

屋敷
ごら

姫文様
おろとさき



一の文様
おろとさき

ナヤ
おろとさき

車
中務もの

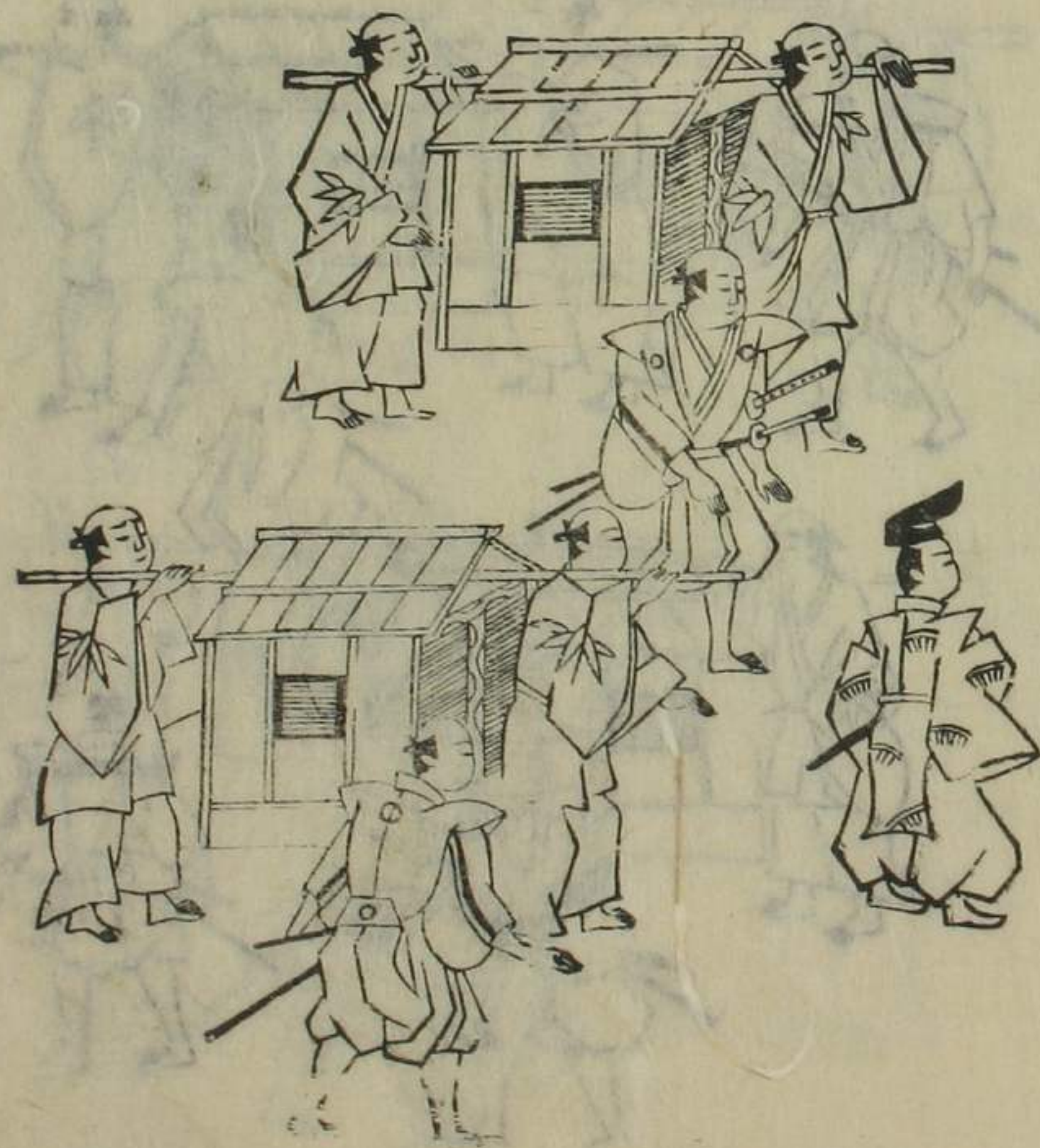
一の文様
おろとさき

長えん
大工らみ

おあこの
おろとさき



おらの人
 車
 月
 ちやく
 おらの人
 けしー押さ
 ちやくり下
 これちり長え
 おき記
 おふう
 ちやく



二乃文様
 車
 おいし
 一乃文様
 小上り
 山とてあま
 おまん
 二乃文様小上り
 おまん



おしよ
おらや
次おすま
ちよ
いぬ
いらや
うね
おん
おん



むと
ちよ
七
り
屋
こ
屋
ス
これ
これ



むつと波の
おすあ
かぶりりや

むさ

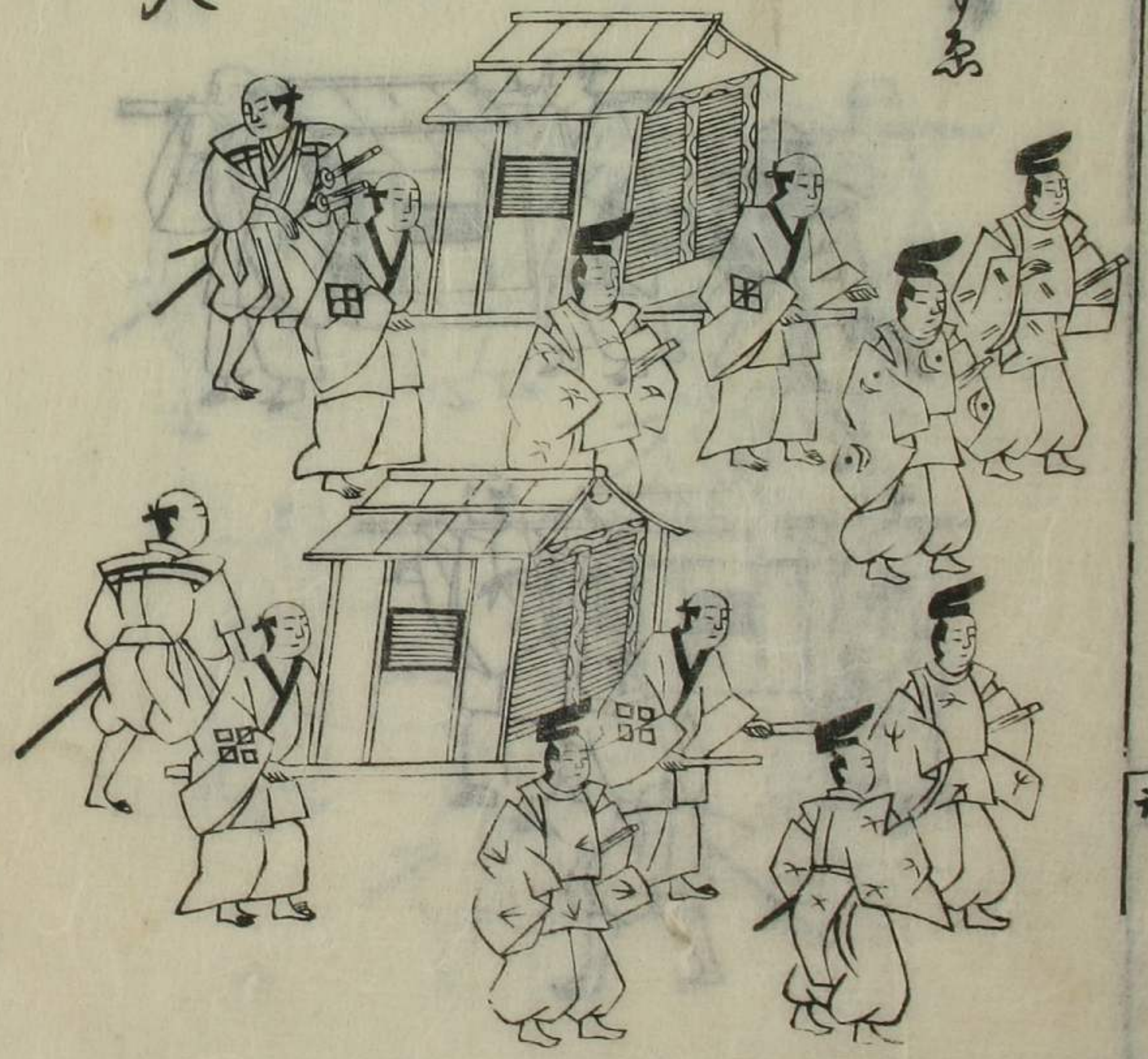
あびり

さうつ

まろえ

と中下

合めし人



けふは...のけし

十二人

右のうりたえん

車

ゆ十二人の長え

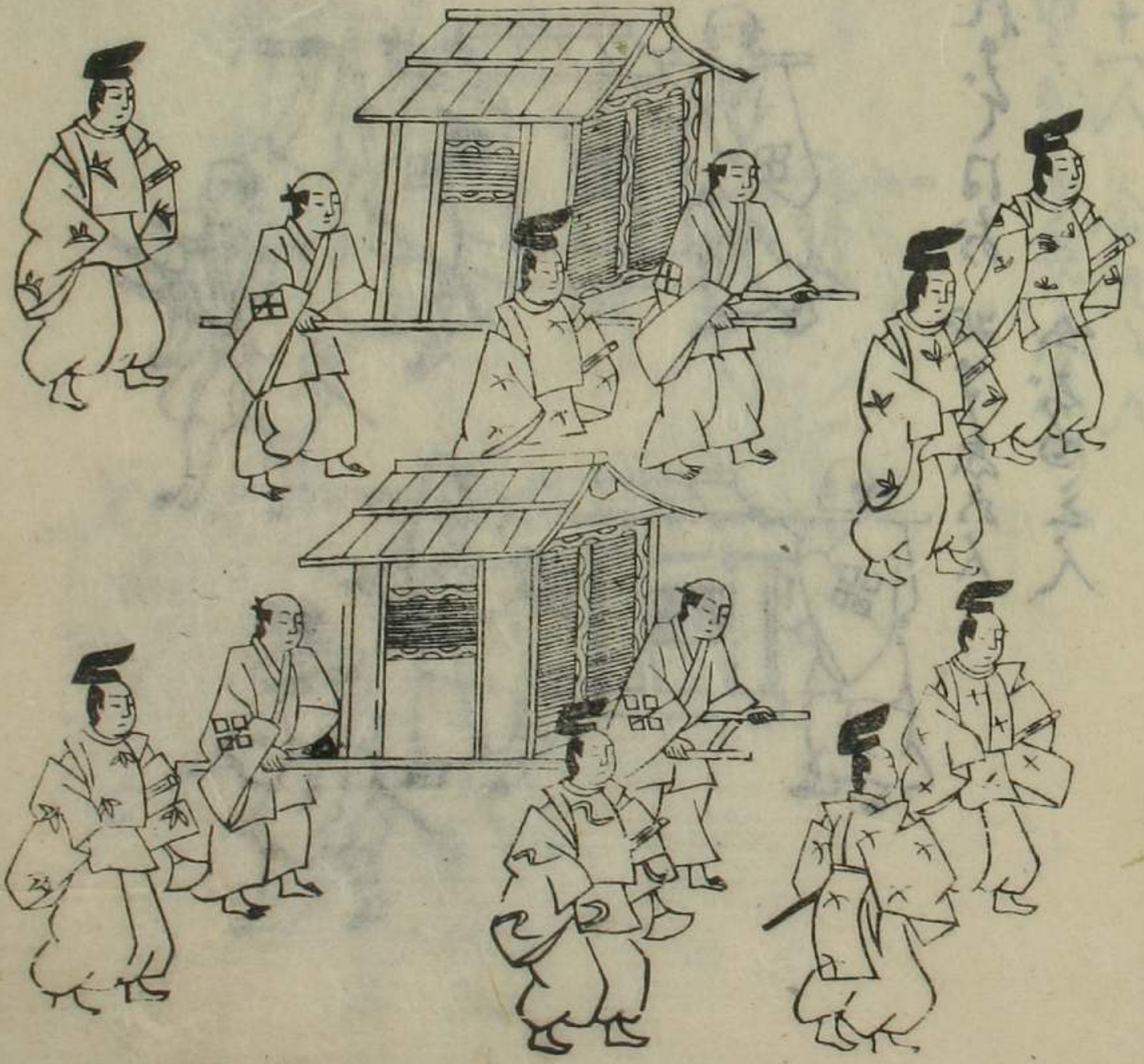
ゆはうり

十一丁

ゆ是あり
十八丁



〇 〇 長 〇 〇 〇
 ぶんごの ぶんの の
 さあごの
 長ん
 均後のの
 けふごの
 かねのの
 あせらのの
 申らごの
 けらごのの



御幸止

十

〇 〇 〇 〇 車
 おらごの
 こらごのの
 かごののの
 錦の
 小落のの
 一任のの
 上らごの
 女院様
 女中の方



御幸止

十

口 口 口 口 口 口 口 口

あつきの

うんどの

さうどの

ちんどの

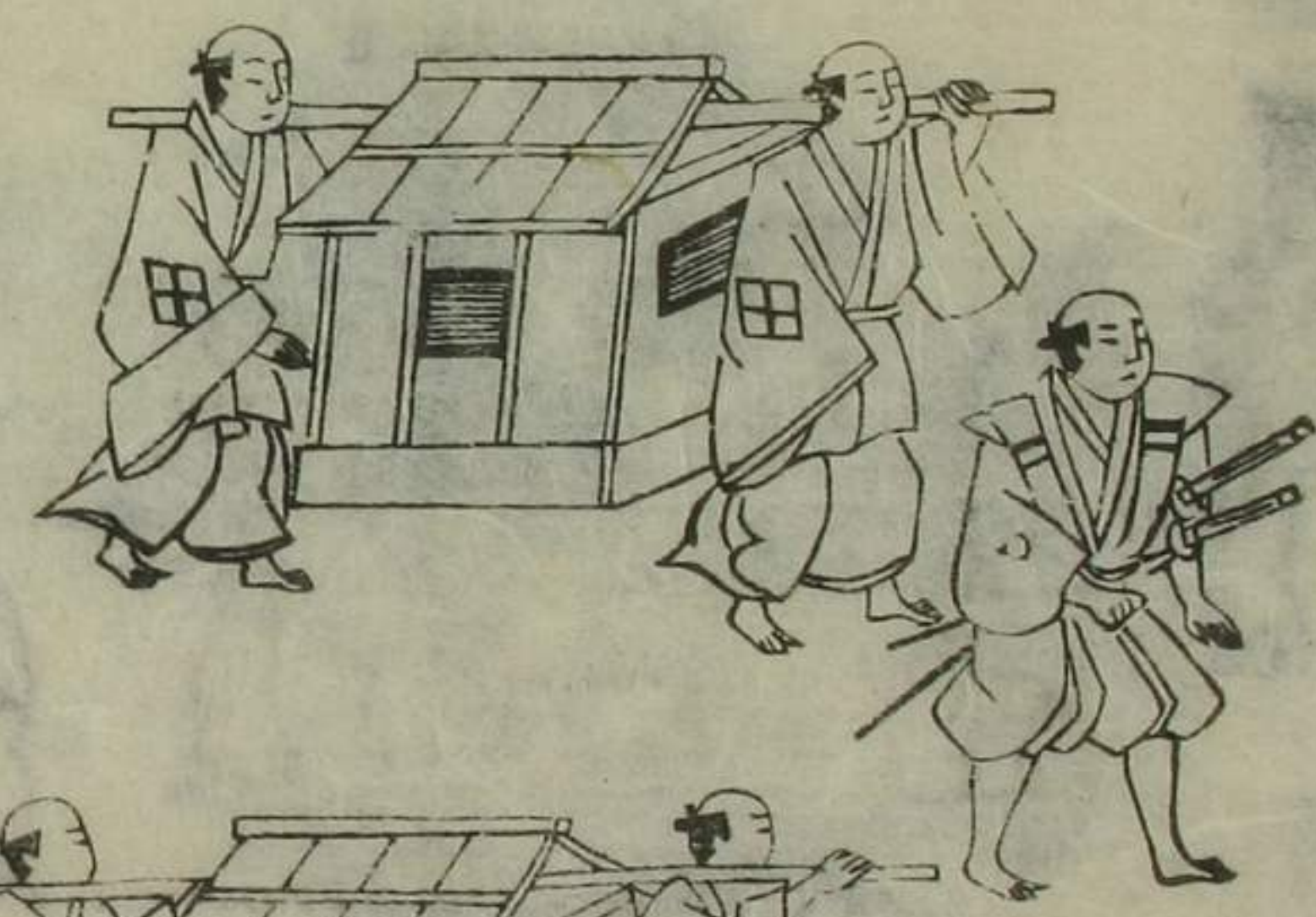
いつこの

らんどうの

たま

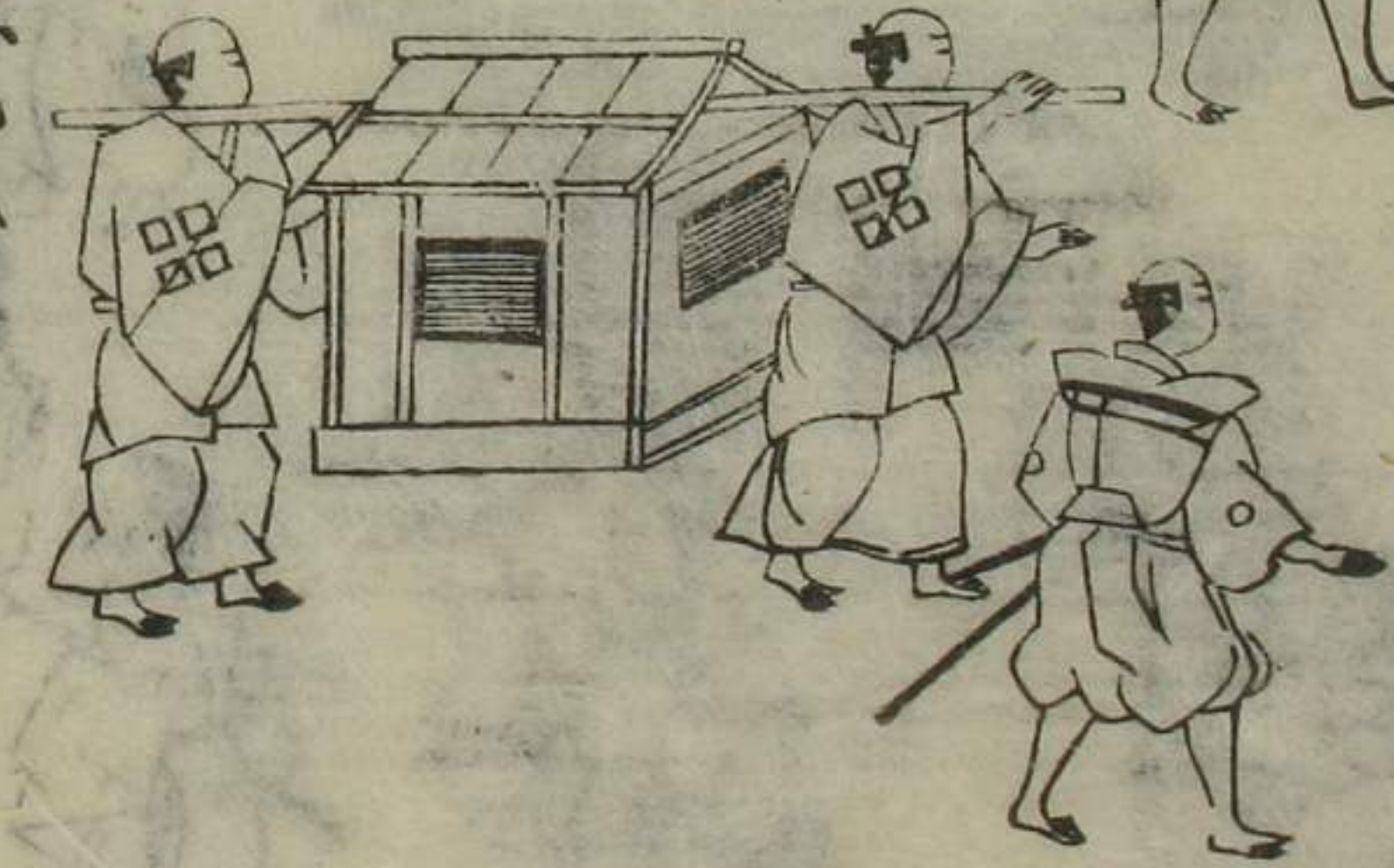
あちぢん

おころ



これぞはあ おすあめん

あぢぢん



いけうはぢぢんけしと十一人合九人
はあおらこ一人仲のこがぢぢんあのみ
左の内九人の車
内十一人の長え
けりぢぢん
あぢぢん十一丁

小神の次

しげぢぢんハ エらえらり

あやハ まけあぢぢん

ろめハ 下のえ

あは様えりよとをけり

いし





武家徳大寺十二湯

二月

武家徳大寺十二湯
 二月
 武家徳大寺十二湯
 二月





陸
勇
之
騎





松屋の侍あまのり

同上

馬丸宰相
馬丸



山科侍従

この先下
侍従

中流
か拍

石虎伝



この先下
赤

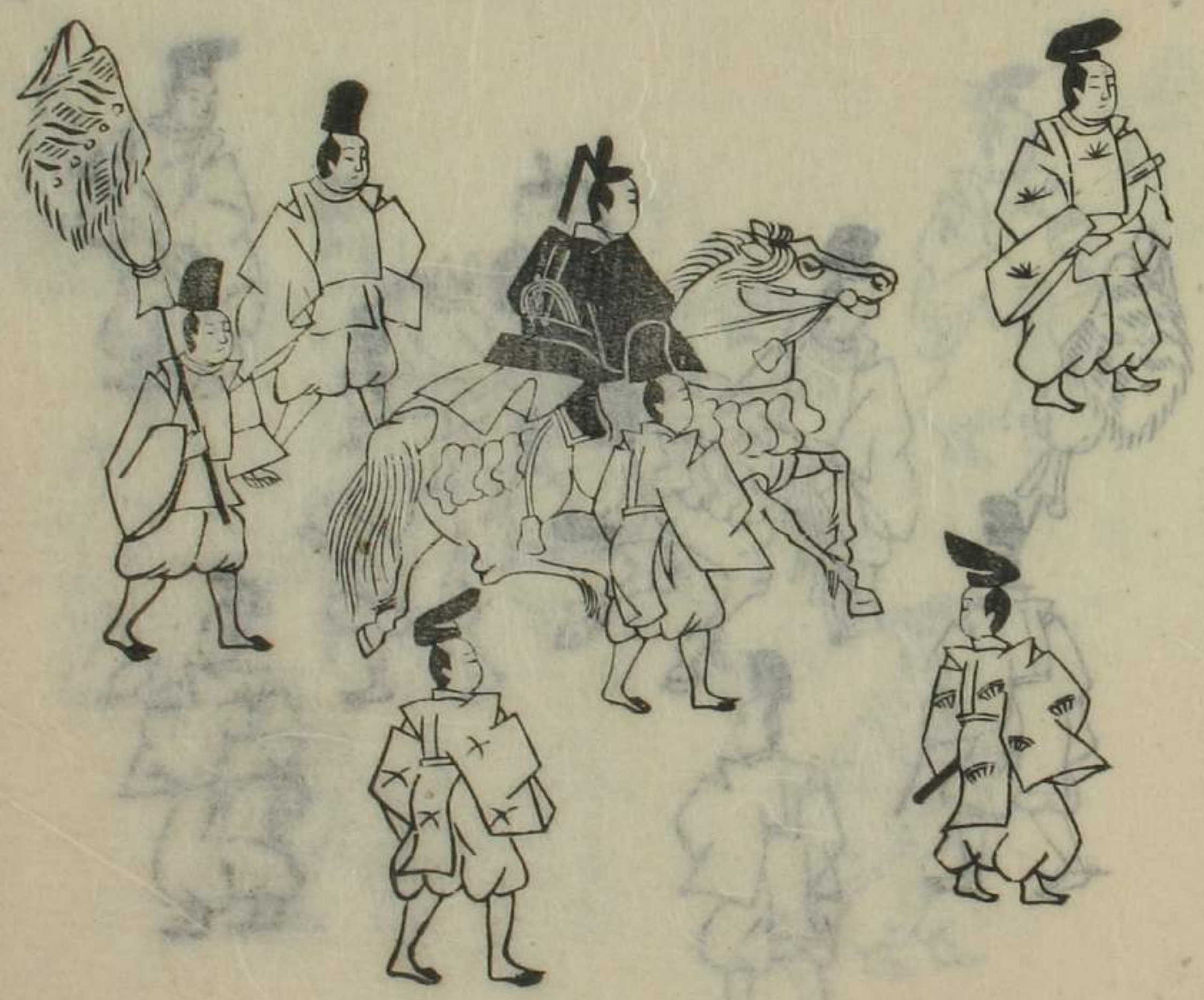
久我
か拍



このとんど
宰相
馬しやうぞう



柳原宰相
馬しやうぞう



ゆる
大納言
日



月路中納言
黒衣



馬名
大納言
系々々々



目録大納言
司



御幸上
おやうぎ



陸奥二河

陸奥二河
御幸上
おやうぎ



陸奥二河

二系た大臣
黒いさうざく

布衣に人
ろてう回
るう人回
まお



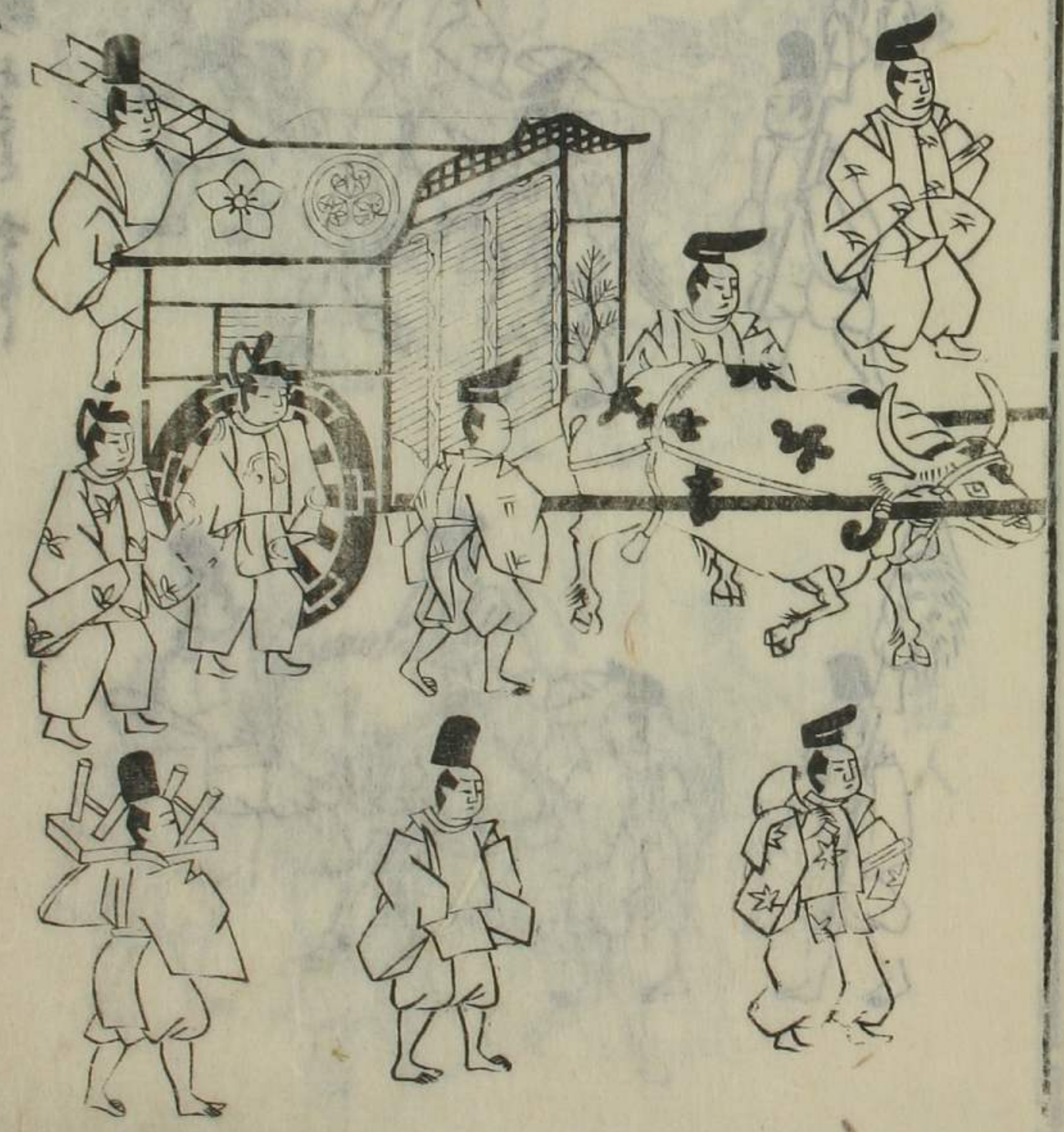
何とる中ね
日

何とる中ね
日



地下衣
御車

中衣振



布衣





のりつ波



のりつ人



のりつ人



これより墨

岩倉

馬

竹



赤

大

竹

竹



清水

竹

西



神

小

竹



かき 赤やうぎ



かき 赤やうぎ

かき 赤やうぎ

かき 赤やうぎ



西河院去場ノ日



西河院去場ノ日

西河院去場ノ日



社心後幸相
日



河上中絶言
日



後ろ更布さるる



洗身おとせしやう



徳上更 新々々



九氣四六片

五七三



陸奥 ありけりやうぞく



新三夏 寺にまゐり



布衣

一糸衣 衣
馬にまゐり



卯



卯

女院





卯
く
め
あ
ま
た
さ
ま
さ
ま



卯
あ
ま
た
さ
ま
さ
ま





淑人二誘ありてまき



巧判官
ありてまき



法皇人二騎を引かざる



法皇人二騎を引かざる



松本侍従

新しうき

お孫

お孫

お孫

お孫

お孫

お孫

お孫



藤波侍従

新しうき

お孫

お孫

お孫



鎌川侍返
日



梅口少右
日



左大臣

藤原公家

西乃人
宰相

平賀



御
...

...

中
門
中
納
言

日



...

御
...

西
九
ノ
中
納
言

日



...

佐々木 市之助



佐々木 市之助



女一六様



香月太夫將
馬やうき

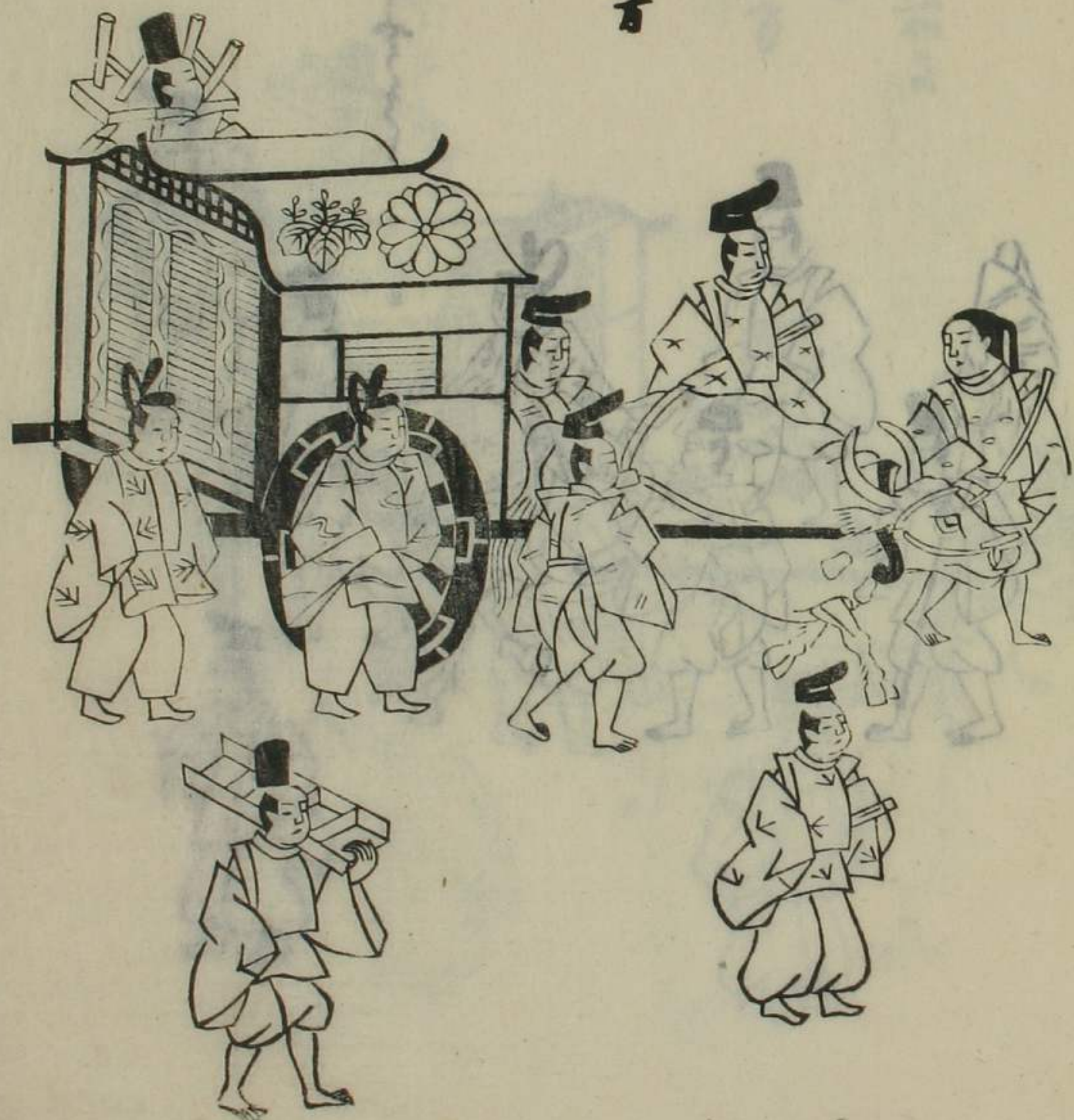


御書

七

御書

車の中



判官

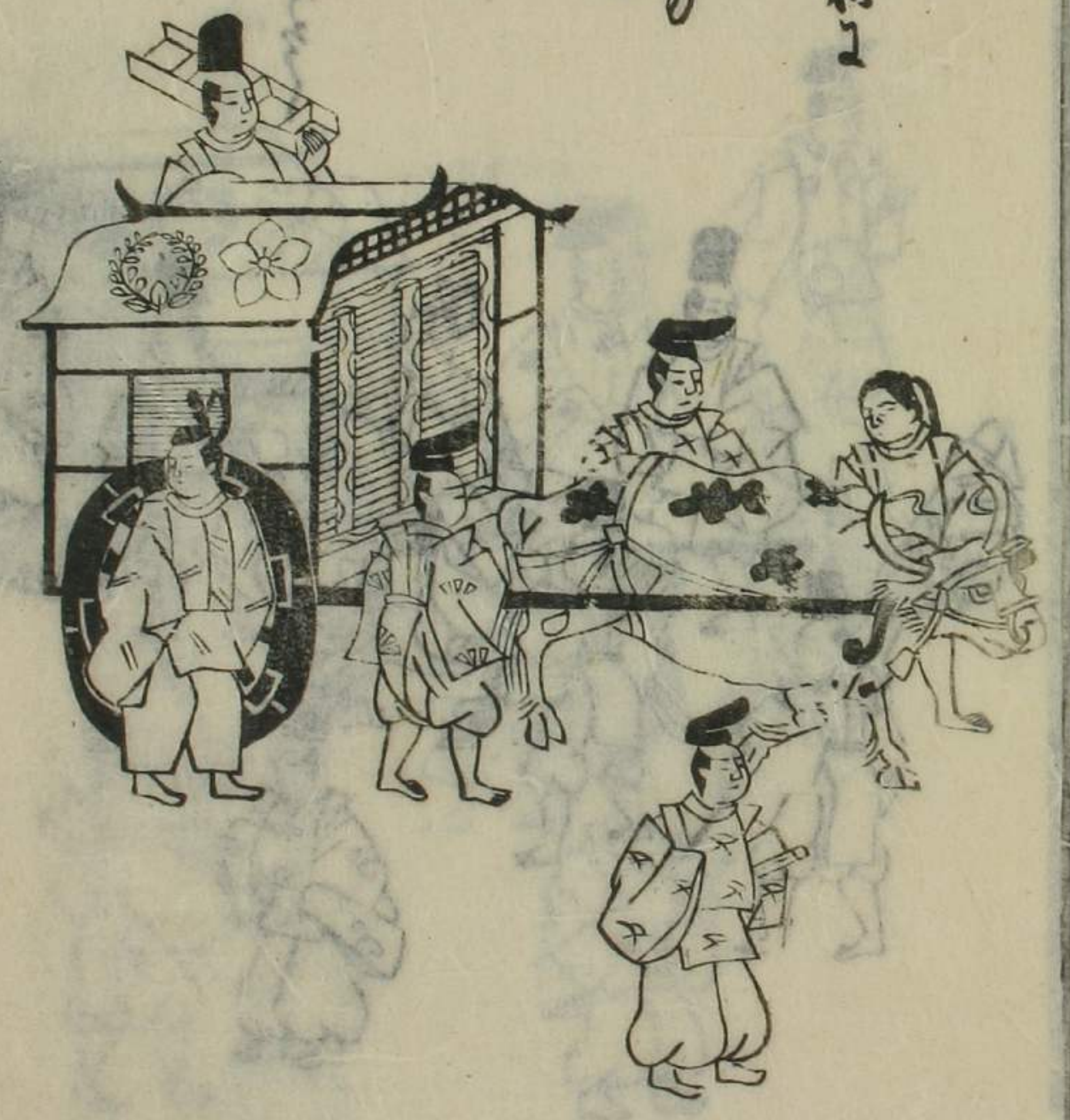
うしろ

うしろ

うしろ



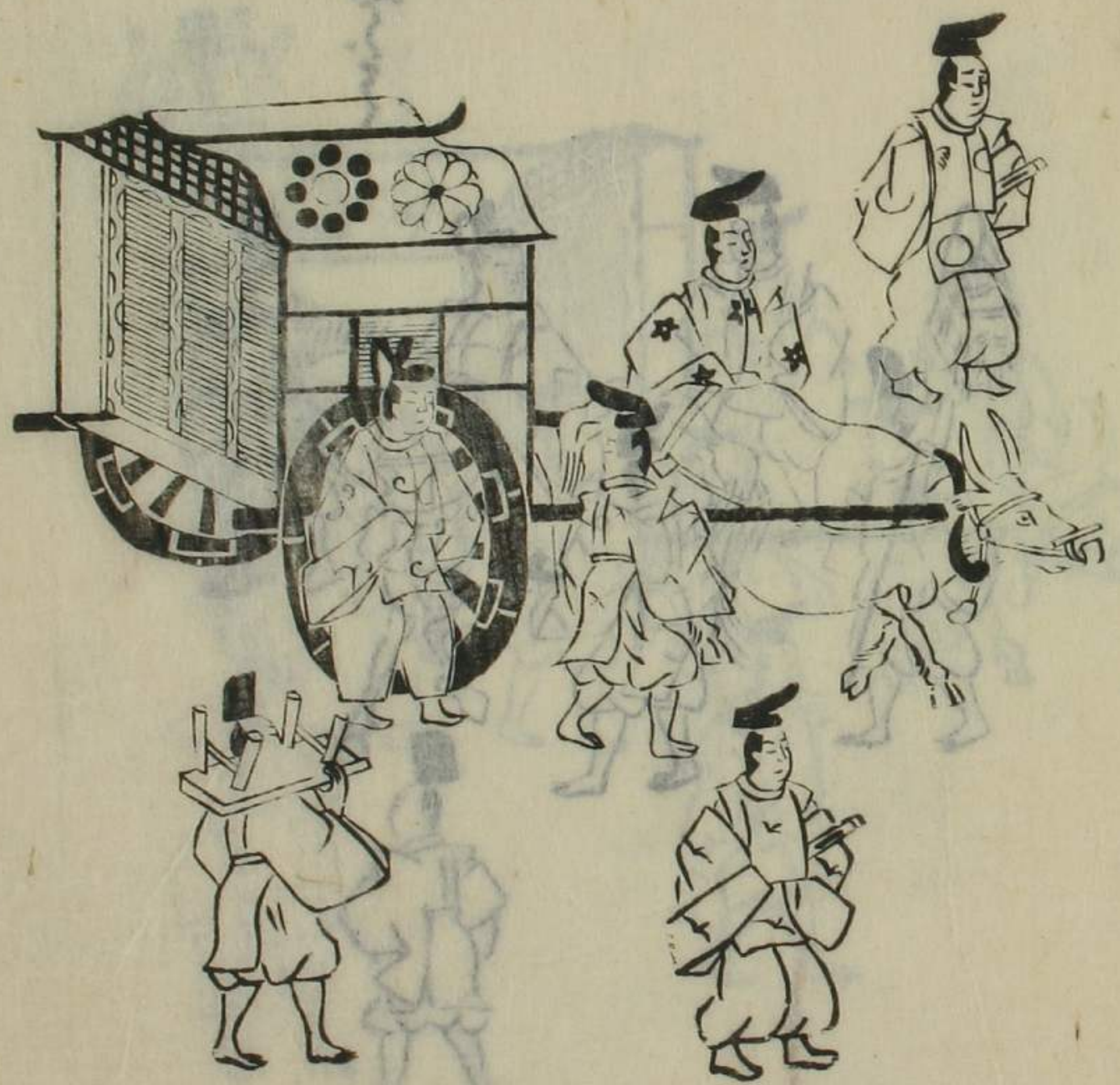
大長えのねよ
きりーん
草の女中



可
也

判官
あきねさき





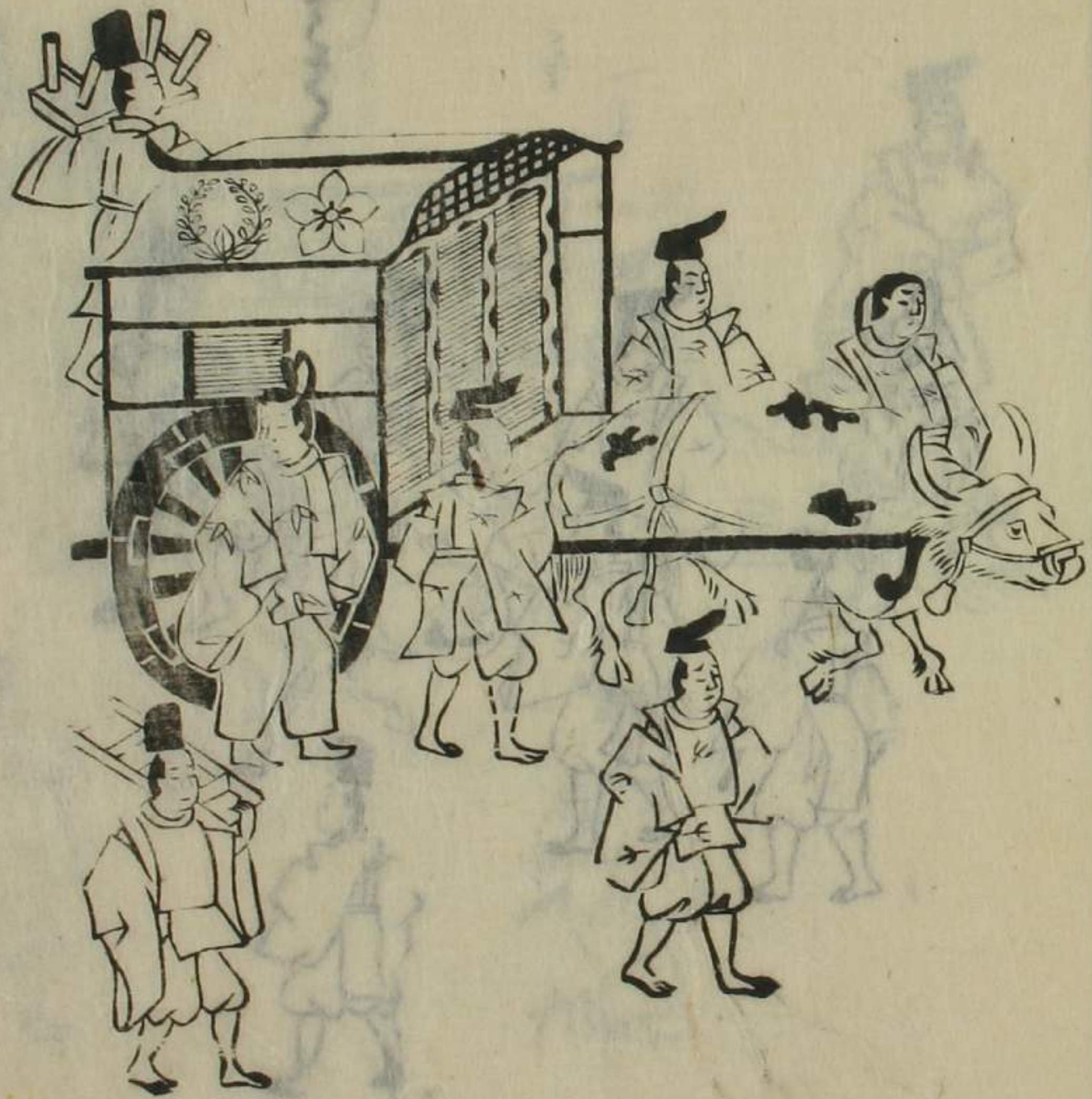
車
女中あ

大門口
あしはやく



判官
あしはやく

車
女中
方



新
官



車中の方



判官
の
けさうき



車女中方



判官
お二にまき



下
水
回
八
務



伝
奏
三
条
大
納
言
馬
下
八
務



港前
あきだうき



信長
中流中納言
ちやうご



